

NEWS LETTER KUMAMOTO

2019.Summer Vol. 118

■発行: 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
 〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館
 ■Publisher: Kumamoto International Foundation
 4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806
 TEL: 096-359-2121/ FAX: 096-359-5783
 e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: http://www.kumamoto-if.or.jp/



《特集》

外国人材の受け入れと共生のための総合的対応策

～くまもと多文化共生月間をとおして～

新しい在留資格 ～ 特定技能

2019年4月1日の改定入管法施行で、これまで外国人労働者の受入を認めなかった14業種の分野で就労することができる特定技能1、2号の在留資格が発効しました。2018年6月15日閣議決定された「骨太の方針2018」で、生産性向上や国内人材の確保を行ってもなお、労働力が不足する分野へ外国人材の受け入

特定技能のポイント

1号

- 在留期間：通算で上限5年まで
- 技能・日本語能力：試験で確認（技能実習2号終了者は試験免除）
- 家族の帯同：認めない

2号

- 在留期間：上限規定なし
- 技能：試験で確認（日本語能力の確認不要）
- 家族の帯同：可能

れを推進する方針が決定され、12月国会で制度概要を定めた「出入国管理法及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」が成立し、特定技能の在留資格に係る制度の運用方針が閣議決定されたのです。介護、ビルクリーニング、素形材産業、産業機械製造業、電気・電子情報関連産業、建設、造船・船用工業、自動車整備、航空、宿泊、農業、漁業、飲食料品製造業、外食業の

不足する人材の確保を図るべき産業分野で、相当程度の知識または経験を有する外国人が対象となります（特定技能1号）。特定技能2号の在留資格は、建設と造船・船用工業の2つの産業分野に限定され、熟練した技能を要求しています。なお、介護分野に関しては、介護福祉士の資格を取得した者へ在留資格「介護」が創設されています。

「2018年度くまもと多文化共生月間」

2008年度自治体国際化協会の地域国際化協会等先導的施策支援事業助成を受け「災害時多言語情報提供システム」を構築した際に、熊本県立大学と共同して「熊本県在住の外国人を取り巻く諸事情」についてのアンケート調査と多文化共生クラスター学習会を実施し、アンケートと学習結果を広く知ってもらうために多文化共生シンポジウムを開催しました。以来、毎年2月を「くまもと多文化共生月間」と定め、外国人住民の書道や俳句作品展、言語、国際結婚、医療通訳、人権、移民など様々なテーマのセミナーや外国人コミュニティ会議を開催して多文化共生社会づくりを推進してきました。

前述の外国人材受け入れ拡大の動きに合わせ、2019年2月のくまもと多文化共生月間では、「多文化共生と地

《特集》

外国人労働者の急増と多文化共生総合的対応策 P1～P2
 市民グローバルサポーター制度について・・・P3
 グロカレ 外国語講座の紹介・・・P4～P5

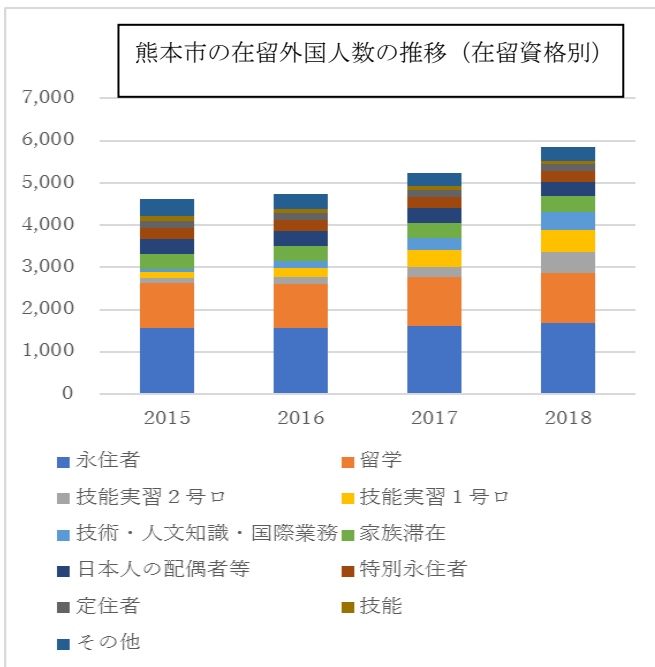
目次

Contents

未来のために・・・・・・・・・・・・・・・・P6
 世界を知る～It know the world～・・・P7
 青年海外協力隊 2016年度4次隊員 西山 小晴 さん
 ちょっと日本語/きふプロ・・・・・・・・P8



方創生」をテーマにシンポジウムを開催し、移民政策・多文化共生分野の第一人者の一人である明治大学国際日本学部教授山脇啓造教授に、多文化共生の新時代に向けて、国や自治体の役割について基調講演いただきました。



在留資格	2015	2016	2017	2018
永住者	1,555	1,570	1,603	1,674
留学	1,068	1,035	1,160	1,187
技能実習2号ロ	134	172	257	513
技能実習1号ロ	143	201	385	503
技術・人文知識・国際業務	65	167	291	429
家族滞在	344	350	352	374
日本人の配偶者等	354	359	352	350
特別永住者	274	273	270	255
定住者	165	167	151	155
技能	103	94	100	87
その他	411	348	307	329
合計 (人)	4,616	4,736	5,228	5,856

日本の外国人住民の増加と多文化共生施策の歴史が整理

され、先進的な多文化共生施策を学ぶことができました。特に、外国人材受け入れに際して、入国管理施策と多文化共生社会づくり施策の両輪が機能することが重要であるという指標が示されました。実際に、熊本市では外国人住民数が大きく増加しています。2018年12月の在留外国人数は5,856人(国籍別で中国1,922人、ベトナム1,020人、フィリピン574人、韓国542人、ネパール269人、インドネシア228人、米国189人、台湾169人、タイ132人、バングラデシュ84人、その他727人)で、前年の5,228人より628人増加しました。熊本地震前の2015年の4,616人より1,240人増加しています。

外国人労働者の急増と多文化共生総合的対応策

熊本市の在留外国人5,856人中、就労目的の在留資格である技能実習や技術・人文知識・国際業務の外国人住民が急増している。熊本地震からの復興に関する建築分野に加え、食品製造、繊維・衣服、機械・金属、農業など技能実習生の需要は大きくなっています。また、日本語学校に通う留学生は、資格外活動許可を得て、コンビニエンスストアなどでアルバイトをする者も多くいます。外国人住民の労働力なしに社会・経済が維持できなくなってきたと言及しても過言ではないでしょう。

技能実習制度、そして新しい在留資格・特定技能の施行の下、今後も外国人住民は増加していくことが想定されます。シンポジウムで山脇教授が指摘されたように、外国人を単なる労働力として受け入れるのではなく、同じ社会を構成する生活者として受け入れていくための多文化共生社会づくり施策が入国管理政策と同時に重要です。

この多文化共生社会づくり施策は、行政・生活全般の情報提供・相談を多言語で行う一元的窓口(多文化共生総合相談ワンストップセンター(仮))の創設が地方自治体に委ねられています。ワンストップセンターの役割は、受け身的な相談対応だけでなく、外国人住民と地域をつなぎ、日本人住民との交流機会を創設していくことであり、外国人住民が、働く企業だけでなく地域の自治会、国際協会、学校などと関係を持ち、多文化共生をテーマとした地域づくりに発展させていくことで、外国人住民が地域に欠かせない担い手となり、多文化パワーが発揮されることでしょう。熊本市は、今年9月1日の多文化共生総合相談ワンストップセンターの開設に向けて準備を進めています。

市民グローバルサポーター制度について

本年（2019年）は2つの大きな国際スポーツ大会が熊本で開催されます。ラグビーワールドカップ日本大会で熊本に於いて2試合（フランスvsトンガ）（ウェールズvsウルグアイ）、また11月末からは世界24か国の代表チームが参加する「世界女子ハンドボール大会」が全試合熊本で開催され、多くの大会関係者、マスコミ、サポーターの来熊が予想されます。また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、八代にカリビアン・クルーズ社が中心となり大規模クルーズ旅客ターミナルが建設される予定です。さらには熊本空港も2024年までに全面改修となり、国際線の就航都市数も大幅に増える予定で、今後も大幅な海外からの観光客増加が予想されます。その様な状況の中、事業団では本年4月に熊本市中心商店街等連合協議会と協力して中心市街地の商店各店舗向けに外国語対応に関するアンケート調査を実施しました。そのアンケート回答の中でもやはり、外国人観光客とのコミュニケーションを取ることの難しさ、外国語対応の必要性のニーズがあることが分かりました。

統計データ（熊本市統計より）

	2015年	2016年	2017年
外国人観光客	582,507人	480,134人	656,240人
外国人宿泊者数	108,033人	104,404人	182,353人
外国籍住民数		5,829人	5,030人

皆さんも「海外旅行中、現地で行きたい場所が分からず、困っているときに分かる言語で話かけられ、ほっとしたことはありませんか？」外国で現地の方に親切にいただけると本当にうれしいものです。

同じ様に熊本で、街中等で困っている外国人がいれば、気軽に声かけし、必要とするサポート・情報が得られる様、お手伝いする市民の皆さんがいれば、外国人観光客や在住外国人にとって過ごしやすい、暮らしたい街になるのではないのでしょうか。又、市民による“あたたかいおもてなし”に出逢うことができると、熊本のイメージアップになることでしょ。

市民の皆さんが持つ外国語スキルと“やさしいおせっかいな気持ち”を活かし、外国人観光客や在住外国人の方々が困っているような時に声がけし、必要なところへ繋ぐ役割を担う「市民グローバルサポーター制度」をスタートすることにしました。

「市民グローバルサポーター制度」の目的・要件等は下記のとおりです。

1 グローバルサポーターとは

街中などで在住外国人や外国籍観光客等から話かけられた時に、街中の案内・買い物補助等の手助け、外国人観光客等が必要とする場所や情報等へ繋いでいただける市民・在住外国人の方々。

2 目的

街中等で困っている外国人が気軽に話かけられる方がいることにより、必要とするサポート・情報が得られれば、外国人にも暮らしやすく、過ごしやすい街になり、又熊本らしい温かい市民による“おもてなし”を外国人旅行者に体験してもらうことにより熊本のイメージアップの一翼を担います。

3 要件・資格

- ・登録言語：英語・中国語・韓国語・スペイン語
・ドイツ語・フランス語・タイ語（7か国語）

※日本語も含めると8か国語

- ・外国語で道案内や外国人観光客等のニーズを聞き取り、必要とされる場所、情報等に繋ぐとことが出来ること。
- ・街中などに於いて在住外国人や外国人観光客等の手助けを行う気持ちがあること。
- ・熊本が好きで。
- ・目的を理解し、積極的に活動する意志があること。

4 缶バッジ

グローバルサポーターへ登録し、活動する方にはグローバルサポーター用缶バッジを支給します。街中などで目の付く場所に付けてください。

今後、様々な場面で市民グローバルサポーターの皆さんが活躍する場面があると思います。熊本が好きで、外国人の皆さんにも熊本を好きになってもらいたい、と考えている方はぜひ市民グローバルサポーター制度に登録し、活動してみませんか！

特に高い語学スキルがなくても大丈夫です。今後は毎月第1土曜日（7月6日、8月3日、9月7日）の午前10時から登録希望者向けに説明会を開催（要予約）していく予定です。興味のある方はぜひ事業団までお問い合わせください。



熊本市国際交流会館グローバルカレッジ 語学講座

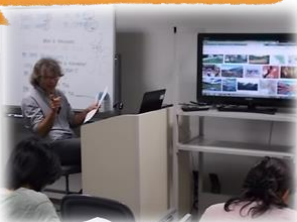
熊本市国際交流会館では、国際化推進事業の一環として、様々な外国語の講座を開講しています。

現在は今年度の前期クラスが5月から開講しており、英語、中国語、韓国語、イタリア語、フランス語、スペイン語、ドイツ語7つの言語で初級、中級（準中級）の17クラスを実施しています。ほとんどのクラスの講師はネイティブで、細かなニュアンスや言い回しについての詳しい説明を聞くことができるだけでなく、その国の文化や習慣についても学べます。授業内容も講師がオリジナルのテキストを使ったり、パソコンやプロジェクターを使って映像を見せたりと、それぞれに楽しく分かりやすく学べるように考えています。秋から始まる後期クラスは8月からの募集を予定していますので、詳細はホームページがチラシにてご確認ください。自分に興味のある外国語、レベルにあった授業が見つかるかと思います。有料にはなりますが、現在行われているクラスについても、受講体験ができますので気になる講座がありましたら、ぜひ、お試しください。

また、英会話の入門と初級クラスは9月からの開講となり既に募集が始まっていますので、ぜひ、お申し込み下さい。今年は秋から国際スポーツ大会が開催され、海外からも多くの関係者、観光客が来熊されると思われます。ぜひ、外国語を学んで、国際交流と「おもてなし」を楽しんでみてはいかがでしょうか？

受講者の声（2018年度アンケートより）

先生の教え方が素晴らしかった。初めてイタリアの方からイタリア語を習ったが、進め方も上手でした。（イタリア語・初級）



引き続き目標の為に（受講を）継続していきたい。この成果をボランティアに役立てたい。（英会話・入門）

その時のタイムリーな話題を1人ずつ考えて話すというのはドキドキしますが、とても為になりました。（英会話・入門）



韓国語を習うのは初めてでしたが、毎回とても楽しく学べて良かったです。（韓国語・初級）



中国の色々なことを聞かせてもらって語学だけでなく、勉強になりました。（中国語・初級）

難しい発音を丁寧に教えていただいて大変感謝しています。（中国語・初級）



（韓国人の）インターン生が授業に入ってくれるのは実際の会話ができるので嬉しい。（韓国語・中級）

英語への苦手意識が少なくなりました。授業が楽しかったです。（英会話・初級）



毎回考えさせられる内容で、難しいけれど勉強になりました。ちゃんと自分の意見を持って日本や世界について勉強しないといけないと思った。（英会話・中級）



講師紹介

語学講座を担当している個性豊かな講師の紹介です。講座を選ぶ際に参考にされてはいかがでしょうか？



今年度から韓国語を担当していますが、講師歴はベテランです。(韓国語・初級担当)



梁先生

外国語講座で唯一の日本人講師で細かなニュアンスの説明や、日本人だからこそ気を付けるポイント等について説明できます。(英会話・入門担当)



ハイティ先生

おしゃべりが大好きな講師が会話を中心とした授業を進めます。(韓国語・中級担当)



具先生

「B」と「V」、「R」と「L」や「th」など、日本人が苦手とする発音をパソコンソフトを使ってゲーム形式で楽しく学べます。(英会話・初級担当)



ショーン先生

テレビでもおなじみのラフィケン先生です。オリジナルのテキストを使い、分かりやすい授業内容と評判です。(フランス語・初級・中級担当)



ラファエル先生

とにかく明るくて大きな笑い声が特徴のクラスです。オリジナルのテキストで授業を進めます。(英会話・初級・中級担当)



ランドー先生

ナポリ出身の陽気な講師がビジュアル教材を多用した内容で分かりやすく教えます。(イタリア語・初級担当)

落ち着いた雰囲気、生徒の皆さんの発言を静かに見守ります。(英会話・上級担当)



セルジオ先生

トッド先生

メキシコ出身の講師が語学だけでなく文化や習慣についても説明してくれます。節目にはミニパーティーも開催。(スペイン語・初級・中級担当)



時に厳しく？時に優しく中国語を教えます。当番で日直のように教室の片付けも行います。(中国語・中級担当)



ルース先生

周先生

ドイツで使用されるテキストを使い、文法から発音まで分かりやすく説明します。(ドイツ語・初級・準中級担当)



明るいキャラクターで中国語の基礎となる発音についてしっかり学べます。(中国語・初級担当)



孟先生



ビリー先生

未来に向けて

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。



筆者：羽賀 友信さん

- ・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
- ・新潟 NGO ネットワーク顧問
- ・JICA 地球ひろば 国際協力サポーター
- ・長岡市教育委員
- ・JICA 専門家
- ※当事業団多文化共生アドバイザー

避難スイッチを入れろ！

1. 近年の災害状況

熊本は3年前に大地震の被害を受けましたが、昨年は西日本地域が未曾有の豪雨による水害、土砂災害に襲われました。各地で河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、1府13県で死者・行方不明者が200名を超えました。被害も広域に発生し、平成に入り最大の被害状況となりました。国は平成30年7月豪雨災害を踏まえた課題として、①居住地域の災害リスクの認識、②地域の防災力、③在宅の高齢者の避難、④防災情報と避難行動の連携、⑤防災情報の伝達を挙げています。

2. 自らの命は自らで守る

地球温暖化に伴う気象状況の激化や行政の人材不足や課題の多様化により、突発的に発生する甚大な災害への行政によるハード・ソフト対策に限界が見られます。よって今後は防災対策を住民主体に転換する必要があります。

避難に対する基本姿勢として、国は住民に対し「自らの命は自らでまもる意識をもつ」、行政の指示を待つのではなく、平時より災害リスクや避難行動について準備し、災害時には自らの判断で非難行動をとることを求めています。また、行政は住民が適切な避難行動をとれるよう、全力で支援し、あらゆる世代の住民を対象にして平時から防災教育・避難訓練などを行い、自らの命は自らで守る意識の醸成・徹底や、地域の災害リスクや取るべき避難行動の周知、災害時には災害情報をわかりやすく提供する必要があると訴えています。

3. 平時から緊急時へ

問われるのが平時から緊急時へのスムーズな連携です。特に自助の部分でいえば、被災体験のある・なしや安全バイアス（自分だけは安全であると思うこと）などによ

り、避難をせずに気づいた時には避難行動がとれないような状況になってしまうことがないように、どうしたらよいかを日頃から準備しておくことが大切です。例えば、指定避難所や一時的に避難する避難場所を知っておくこと、ハザードマップにより危険度リスクを事前に認識し、家族・地域で避難行動のルールを決めておくこと。特に、手遅れにならないよう事前に決断して逃げること、つまり、「避難スイッチ」を入れることが最重要事項です。

4. 高齢者等の要配慮者の実効性の確保

特に災害では、高齢者が逃げ遅れてしまうケースが目立ちます。災害時に適切な避難行動をとれるよう、前段で説明した「避難スイッチ」を簡単に入れられるように準備する必要があります。高齢者の日常生活に関する支援については、地域包括支援センターやケアマネジャーが核となり実施されていますが、防災と福祉の連携による高齢者の避難行動を地域住民に理解してもらうことが大切になってきます。当然、この中には要配慮者の避難支援強化も含まれています。

5. 課題の解決に向けて

全域避難が発令されるケースが今年たびたび起きていますが、その避難率はわずか1. 数%に過ぎません。温暖化による大規模な豪雨災害が続く中、新たな避難支援体制が問われています。水害が発生してからでは消防署や行政も移動が不可能になり、支援体制が取れなくなります。まず、「自助」を強化するためにどう情報を準備しておくか、また、警報がどのレベルに達したときにどういう行動をとるべきか、具合的な行動指針を各家庭・地域で共有することが重要になります。最大の課題は、外国人住民に対してこれらの事柄をどう周知し、連携システムを構築すべきです。災害も新しい局面を迎え、進化しています。それに合わせ、我々も進化した対応策が求められています。



世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力的分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

「サモアにて」

青年海外協力隊 2016年度4次隊 西山 小晴 (にしやま こはる) さん

(2017年4月～2019年4月 サモア派遣 職種：水泳)

サモアという国を知っていますか？私は、サモアに派遣が決まるまで、ほとんど知りませんでした。行ってみると、そこは年中夏で、きれいな海に囲まれた、小さな島国でした。その樂園のような国で、私は水泳を教えました。最初の頃は、言葉が上手く通じなくて、何をすればいいのかかわからず、辛いことも多かったです。それでも、疲れた帰り道、すれ違う現地の人たちが、「マロ（こんにちは）」と眉毛を上げて挨拶してくれたり、目が合うとニコッと笑いかけてくれたり、そんな些細なことでいつも元気をもらっていました。



サモアには、公営のプールが首都に1つしかありません。私は、そこに泳ぎに来てくれる私立の学校や、クラブチームの子供たちに、指導や指導補助をしていました。土曜日は海での水泳指導をしたり、時々大学生や、大人向けにも指導をしたりしていました。活動は楽しかったですが、どれも言われてやっていたことなので、私がいなくてもどうにかなることばかりだったように思います。やりたいことはあるけれど、忙しいと自分に言い訳し、行動に移せないという時期が長く続き、もやもやしながら過ごしていました。

時間ばかりが過ぎていく中、急にプールの工事が行われることになり、私のメインの活動場所がなくなりました。残り任期7ヶ月の頃です。毎日の活動時間は2時間くらいになり、何もしない時間が増え、最初は悩みました。しかし、考えるよりもやってみようと思うようになってからは、少しもやもやが解消されました。



それからは、水泳授業をしたことのない公立の学校の子供や村の子供達に、ホテルのプールで水泳授業を行うようになったり、新しいことが始められました。

時間の余っている私を見て、小学校の先生が学校に



呼んでくれて、日本文化を教えたり、日本の学校とスカイプ交流も行ったりました。子供たちは

日本についてすごく興味を持ってくれました。好きなことをさせてもらっていたので、すごく楽しかったですが、同時に日本文化を教えることの難しさも知りました。

この最後の7ヶ月は、本当に有意義で楽しい時間を過ごせましたが、もっと早く自分にできることを見つけて行動できていればと悔やみました。私に親切にしてくれたサモア人の為になることを、もっとしたかったです。

そんな後悔もあります。が、学ぶことの多い、楽しい2年間でした。お世話になった人たち



には、感謝してもしきれません。サモアが私の任地で本当に幸せでした。

JICA 海外協力隊について

JICA 海外協力隊（青年海外協力隊、シニア海外協力隊）は、実際に開発途上国に住み、それぞれの国の課題に対して現地の人々と協力しながら解決方法を探していくボランティア活動です。

募集期間は年2回（春と秋）です。興味がある方は

JICA デスク熊本 (jica-desk.kumamotoshi@jica.go.jp) までお問い合わせ下さい

ちよつと Japanese Tip
日本語

NPO 法人日本語サポートあさ
代表 小川 ひろみ さん

ーベトナムの日本語教室からー

ずっとずっと昔、20年くらい前。日本語学習の多くは中国人でしたが、今はベトナム人。それで、ハノイには留学生や技能実習生対象の送り出し機関が数多く存在し、来日前に集中的に基礎日本語を学んでいます。ハノイの朝は早くて、学校も7時半に始まります。そのとき、聞こえてくるのがラジオ体操。ハノイの喧騒の中、突然そこだけ日本です。そのあと、12時頃まで勉強して、それから2時間の昼休み。学校の事務所もその時間は閉まっていて、部屋が暗いので、なんだろうと覗いてみると、今まで職員室だったところに簡易ベッドが並んで先生たちが昼寝をしています。2時間あればゆっくり食事してゆっくり寝ることもできます。昼寝後はすっきり目覚めて午後の授業がはじまります。平均年齢33歳のベトナムパワーは朝のラジオ体操と昼寝からきているのかもしれませんが。(2019年初夏)

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが綴るKIFのアクティビティ インターネットではもっとたくさん紹介しています。
http://blog.goo.ne.jp/kifblo

皆さん こんにちは、

いよいよ梅雨入りも近くなってきました。

4月の後半から国際交流会館でお世話になっている熊本学園大学の古谷です。

今日は、熊本市内の小学校で出前授業が行われ私も同行させていただきました。出前授業ではモルドバ、フィリピン、ナイジェリア、ニュージーランド、ロシアの出身の方々から水とごみ処理、そしてユニバーサルデザインに関して各国の事情を説明して頂きました。



どの国も非常に興味深い内容で、参加した小学生はそれぞれ質問をするなど授業に楽しんで参加しているようでした。

今日の出前授業から世界の国々やその違いに興味を持つ子ども達もいるのではないかと思います。

以上、インターン生の古谷でした。

☆2019年度賛助会員募集！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。

- ①個人会員 一口 2,000 円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000 円/年(一口以上)

2020年3月までの会員期間となります。

<入会のお申し込み・お問い合わせ>

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp



- 阿蘇くまもと空港より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩3分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩3分

from Aso-Kumamoto Airport-
45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho"
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター
開館時間 午前9時～午後8時
多文化共生オフィス TEL:096-359-4995(直通)
休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center
Service Hours 9:00a.m.-8:00p.m.
Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th-Jan. 3rd